

護衛艦「はぐろ」

—イージス艦8隻体制に寄与—

The 8th Aegis Destroyer in Japan JS “HAGURO”



艦船事業本部 横浜事業所

っている。

2.3 武器システム

最新イージス戦闘システムを搭載し、弾道ミサイル防衛と対空戦が同時遂行可能な統合防空戦能力及び共同交戦能力を有し、弾道ミサイル対処及び防空任務を遂行するほか、護衛艦として水上艦船攻撃、対潜捜索攻撃、水陸両用戦での対地攻撃・敵上陸部隊攻撃能力を有する。

本艦のイージス戦闘システムでは、SM-3ブロックII A（弾道弾迎撃ミサイル）の運用を可能とすることに加え、新たに共同交戦能力（CEC^{*3}）を装備している。また、シースキマーミサイルへの対応能力の向上のため、対水上レーダ（SPQ-9B）を装備予定である。

その他の主要兵装としては62口径5インチ砲、高性能20mm機関砲、ミサイル垂直発射装置、SSM発射装置、3連装短魚雷発射管を装備している。

艦内には光ファイバを使用した高速大容量の艦内統合ネットワーク（J-SWAN^{*4}）を装備し、各種戦術情報の円滑な伝達を実現している。

2.4 航空機運用システム

護衛艦「まや」と同様に、船体後部に格納庫と飛行甲板を持ち、1機の哨戒ヘリコプタの発着艦と格納が可能である。さらに格納庫内クレーン、関連支援区画の設備等を備えることで汎用護衛艦と同等の整備作業を可能とし、航空機運用能力の強化を図っている。

表1 「はぐろ」主要目

Table 1 JS “HAGURO” Principal particular

全長	170.0 m
最大幅	21.0 m
型深	12.0 m
基準排水量	8,200 t
乗員	約300名
主機関形式・出力	COGLAG 69,000馬力
推進器	CPP2基

*1 : Radar Cross Section

*2 : COmbined Gas turbine eLectric And Gas turbine

*3 : Cooperative Engagement Capability

*4 : Japan Ship Wide Area Network

1. はじめに

本艦は、「あたご」型護衛艦（DDG）の性能を向上させた「まや」型護衛艦（DDG）の2番艦で、2021年3月19日に就役、海上自衛隊に引き渡された。本艦の主な特徴を紹介する。

2. 本艦の特徴

「はたかぜ」型護衛艦（DDG）の代替として平成28年度に計画、建造された海上自衛隊で8隻目のイージス戦闘システム搭載護衛艦である。艦名は山形県鶴岡市に位置する羽黒山に由来している。

本艦の就役によって、海上自衛隊のイージス艦8隻体制が整うことになる。

2.1 船体

護衛艦「まや」と同様に、舷側をブルワーク構造として艀装品を外部から遮へいするとともに、煙突内筒も短縮して遮へいすることによってRCS^{*1}を低減させてステルス向上を図っている。

また、本艦は被視認性を下げるために艦名、艦番号、煙突等の塗装色を灰色にしてLow Visibility化を図っている。更に、最新型のアンテナ装備に合わせて、マスト構造及びアンテナ配置が変更となっている。

2.2 推進システム

左右独立のそれぞれの推進軸はガスタービン主機、推進電動機、減速装置、可変ピッチプロペラ（CPP）の各1基によって構成されており、電気推進と機械推進を組み合わせたハイブリッド推進（COGLAG^{*2}）を採用している。これによって燃費を向上させるとともに、ライフサイクルコストの低減を図